



11月は米工読書月間

「読書の秋」になりました。米工図書館でも、図書委員と一緒に展示や広報を行っています。

①図書館報「米工図書タイムズ 第75号」配布

毎年1回発行している図書館報です。今年も、先生と図書委員のおすすめ本の紹介記事を掲載しています。話題の本、名作、実用書まで幅広いラインナップです。

②図書委員作成のしおり配布

人気の図書委員作成のしおりです。単語帳にマスキングテープやシールを貼り付けて作っています。同じ材料を使っても作る人によって、デザインは様々。読書が楽しくなるしおりです。



③高校生にすすめたい本2021（鳥取県立図書館発行）

県内の各学校図書館関係者が選んだ「〇〇したい人へ」おすすめするブックリストです。

読書を勧める雰囲気があっても、本選びに迷う、読む時間がない、読書が役に立つのか、など本を手にとるまえに躊躇してしまう人におすすめするのが吉田裕子『明日の自分が確実に変わる10分読書』集英社（2020年）です。本を読むことで得られるものや4種類の読書の使い分け、スマホの活用など目次をみて気になるところから読んでいくと、本を選びに行こうかなという気持ちになります。

「第5回本、書店、図書館にまつわるエピソード大賞」募集について <主催：鳥取県図書館協会>

鳥取県図書館協会が、読書推進を目的に、鳥取県内の書店や図書館で実際に体験したエピソードや、本にまつわるエピソードを募集しています。詳しくは鳥取県立図書館ホームページ内鳥取県図書館協会「発掘！図書館エピソード大賞」をご覧ください。<http://www.library.pref.tottori.jp/la/cat8/cat11/>

私の本にまつわるエピソードを1つ紹介します。

20年近く前、図書館の仕事に対するモチベーションが下がった時期、読んだのが菅谷明子『未来をつくる図書館—ニューヨークからの報告—』岩波書店（2003年）という本でした。利用者が様々なものを創造する「孵化器」としての図書館のあり方を示したニューヨーク公共図書館の取り組みの全てが魅力的で、図書館がこんなに自由な可能性を秘めていることに感動しました。今も図書館の仕事をしているのはこの本との出会いがあったからかもしれません。そして昨年、鳥取県立図書館開館30周年記念シンポジウムで著者・菅谷明子さんの講演を聴くことができ、とてもうれしかったです。当時の自分だったから、この本との出会いがとても印象的だったのだと思います。人によって悩みや克服したい課題はそれぞれです。今の自分に必要な本を選べるのは自分しかいません。まずは、図書館や書店に足を運んでみてはいかがでしょうか。（司書主任 安達佐智子）